

## 7月16日（月）海の日に、第2回広域避難訓練が実施されます

今回の訓練では、取手市立藤代南中学校までの住民避難、及び、取手市役所藤代庁舎大会議室への東海村災害対策本部の機能移転（模擬）、また、取手市職員の避難所開設および避難受け入れ等について行われます。

**東海第二原発が重大事故を起こしたとの想定に基づく訓練です**



藤代庁舎



1

避難のためバスに乗り込む

1,2,3 の写真は、昨年の訓練時のものです。藤代南中学校体育館の写真は、藤代南中の HP からお借りました。



2 自衛隊の協力も受けます



3 村の災害対策本部



藤代南中学校体育館

今回の訓練では、住民は、総合福祉センター「絆」に一時避難し、その後バスに乗って藤代南中学校へ向かい、避難場所は体育館となります。

職員は、自家用車で藤代庁舎へ向かい、災害対策本部を設置します。訓練日に休日を選んだのは、やはり日常の交通の妨げを回避するためでしょうか。

広域避難計画の実効性を確認していく作業は、関わる全ての自治体や関係者が同じ訓練と一緒に参加しなければならないと思います。そのような計画が立つのか、訓練ができるのか見通しは立っていないと言えます。

また、福島原発事故の経験がありながら、大地震発生による原発大事故という想定になっていないことも、現在策定中の広域避難計画の真偽が問われていると言っても過言ではないと思います。

東海村全域がほぼ東海第二原発から 5 km 圏内、30 km 圏内に 96 万人が居住するという立地環境では、重大事故になれば、元の生活を取り戻すことはできなくなるでしょう。重大事故後の廃炉作業も大変です。東海第二原発は、このまま運転を止め、廃炉にすることが関係者すべての人にとって重要なことです。